

編 集 後 記

医学はますます進歩し、それはとどまることを知らぬかのようなものである。先日は iPS 細胞の臨床応用が開始され、これが大きく報道された。一般的になるにはまだ相当の時間が必要であろうが、成功することを祈りたい。

さて、今回は生涯教育講座 2 編と、5 つの臨床・研究発表である。生涯教育講座は 2 編ともに脳に関するもので、濱先生のご発表では、光学的膜電位測定法というものを初めて知り、興奮波の発生と抑制について教えていただいた。北垣先生のご発表は認知症の MRI 診断である。CT が出現した時にも大いに驚いたものであったが、更に MRI である。この放射線部門の画像診断の長足の進歩にも驚くほかない。一昔前には想像もできなかったことが実現してきている。

臨床・研究の 5 編は大腸内視鏡検査時の患者の苦痛を少なくする工夫、珍しい大腸の二重癌、尿管管膿瘍と糖尿病、偶発的高度低体温症、家庭内暴力による頭部顔面外傷である。

低体温症は独居や二人世帯の高齢者が増えている時にはこれから増えてきそうであり、家庭内暴力は慎重な対処が必要で、取り扱い方を知っておくべきであろう。

それにしても、CT や MRI がここまで普及すると、診断は正確になってこようが、医療費を押し上げる一因になっていると思われ、医療経済上はどうかののだろうか。

(K.H)

島根医学編集委員

葛尾信弘，貴谷 光， 泰 公平，児玉和夫，森本紀彦，
浅野博雄，沖田旺治，齊藤洋司，佐藤比登美，井川幹夫，
中山健吾，徳島 武

島 根 医 学

平成26年9月30日発行

発行者	島 根 県 医 師 会
	松江市東奥谷町
編 集	編集者 葛尾信弘
発行所	松江市学園南2丁目3番11号 有限会社 松陽印刷所